今月の人事パーソン
Center of HR Universe

株式会社ウィルグループ
人事本部 人材開発部
松原（まつばら） 輝（ひかる） さん

「現場との親近感を楽しむ人事でありたい」

持続的な成長につなげるTMにやりがいを感じて

個と組織をポジティブに変革するチェンジエージェント・グループをミッションに掲げるウィルグループ（本社：東京都中野区）。人材派遣事業を中心に，国内および世界約10ヵ国で事業を展開している。2012年1月，航空物流業界から転職し，現在はタレントマネジメント（TM）を担当する松原輝さんにお話を伺っていく。

「入社時から約6年間，製造系の人材サービスで現場やコーディネータ，営業部長として携わっていました。2018年に人事に異動したのは社内の『チャレンジ公募制度』を自ら活用してのものでした。実は当時，当社はすでに新卒採用面での強力な地盤ができており，今後は中途採用に力を入れていくとの採用方針を聞いたからです。私自身も中途採用者ですので，社内に“中途”という新たなブランドを構築できたら面白いだろうなと思い，人事キャリアがスタートしました」

同社には『チャレンジ公募制度』の他に，希望する組織の責任者に直接自分を売り込む『社内FA制度』，圧倒的な結果を出した社員が自分のやりたい仕事を社長に直談判できる『直談判制度』など，チャレンジングな人材を応援する制度が揃っている。

「現在は，社員のキャリアを支援する体制が整っているのも，当社の人事の自慢です。そのようななかで，社員1人ひとりの能力・スキル・経験といった情報を，採用や育成，配置などに活用し，職場の持続的な成長につなげていくタレントマネジメント業務に大きなやりがいを感じて向き合っています」

TM×PAで満足度の高い異動・配置へ

そもそも同社がTMに本格的に取り組み始めたのは2020年のことだった。事業会社の統廃合が進むなか，異動・配置に関する業務が急激に増加していたことがきっかけになったようだ。

「当初はその膨大な仕事量に四苦八苦していましたが，その改善を狙って導入したのが，クラウド人材管理システムでした。ただ一口に“TM”といってもその領域はかなり広くなりますので，私が携わる範囲は異動・配置に絞り込むことになりました。そのようななかで，①TM，②採用，③システム運用の3業務を担当しています」

ちなみに，①〜③の効果をより高めるために行っているのがピープルアナリティクス（PA）で，松原さんともう1人のデータサイエンティストが携わっており，後者はPAのプロフェッショナルである。

「2023年4月からは，私が担当するTMともう1人が担当するPAで異動・配置に関するデータ管理をしています。とはい

【PROFILE】
2012年1月，航空物流業から転職。約6年間，製造系に特化した人材サービスにて複数職種を経て，2018年4月，自ら手を挙げて人事本部人材開発部へ。2020年4月頃より現在のTMの前身となる業務に従事。その後，クラウド人材管理システムの導入に中心者として携わり実績を挙げ現在に至る。

▲5歳からプレー経験のある筋金入りのサッカー人間。「毎週日曜日は高校時代の同級生たちとフットサルで汗を流しています」

っても，これまでこのような試みは社内では行っていなかったため，個人情報の管理ということで当初はなかなか協力を得られない状況もありました。ただ昔からのいわゆる“カン・コツ・経験”からの脱却を図るためには，クラウド人材管理システムの活用は，絶対に避けて通ることはできませんでした。導入からようやく3年が経ち，今では7～8割の方々が顔写真入りで協力してくれるようになりました。年に2回ほど実施するキャリアアンケートなどの記載内容と慎重に照らし合わせながら，社員1人ひとりにとって，より高い満足度が得られるような異動・配置になるよう努めています」

「草刈り」「石拾い」のような地味な仕事だからこそ

今はまだ異動・配置後の検証まではなかなかできていない状況であるからこそ，自身の仕事内容の精度を上げていく必要があると冷静に自己分析する。

「クラウド人材管理システムを活用しているといっても，データの見える化や傾向分析など，まだまだやれることはたくさんあります。そのように広がりが見えたり深めることができたりと多くのチャンスが眠っているのが自分に与えられたフィールドで，いつまでもやりがいを持ったうえで，楽しんで仕事ができるのではないかと思っています。そう考えると，一生かけても終わらないのではないかと思うくらいの仕事量かもしれません（笑）。そこもまた非常に面白いなという気持ちで仕事をさせてもらっています」

松原さんは，自身の仕事を「草刈り」や「石拾い」に例えて続ける。

「草刈りも石拾いも，本当に地味な作業かもしれませんが，それを周囲の皆さんに見てもらったときに，図らずもフィードバックをいただくことも決して少なくないのです。私が草刈りや石拾いに精を出すことで，社員や役員の次のステップに進むきっかけになれることも楽しいです。もっというと，HRIS（人事情報システム）と呼ばれるようなインターフェースのシステム管理の仕事は，誰でも携われるわけではないので，このような機会をもらえたことも嬉しいですね」

日頃からいろいろなコミュニケーションを大切に

異動して出合えたTMという領域に対して，幾度となく「楽しい」というワードを使う松原さんである。

「本当にいろいろなことができるからこそ，きちんと社内のニーズを聞き出すことも大切です。例えば，アンケートを取るということだけだと，ものすごくドライな仕事になってしまいますので，日頃から現場の皆さんや，他部門の方々とコミュニケーションをとることを大切にしています。そのようなつながりのなかから生まれてくる，例えば，離れていても親近感があるような，そんな温もりのある人事パーソンでありたいですね」

（取材／関本しげる）